

JR大阪駅—新今宮(南海)—JR橋本—JR隅田(すだ)—真土山 万葉歌碑めぐり—JR笠田—妹背山歌碑めぐり



飛び越え石へ

聖武天皇が
紀伊へ行幸
された時に、
大和に残った
従者の妻子に
頼まれて笠金村
が詠んだと
いわれます



大君の行幸の
まにまものふの
八十伴の緒と
出で行きしうるはし
夫は天飛ぶや
輕の路より
玉たすき畝傍を見つ
あさもよし紀伊道に
入り立ち真土山
越ゆらむ君は：
笠金村

卷4-543



石上 布留の尊は
手弱女の惑ひに因りて
馬じもの縄取り付け
鹿じもの弓矢困みて
大君の命恐み
天離る鄙辺に罷る
古衣真土山より
帰り来ぬかも
石上乙麻呂

卷6-1019

神代の渡し「飛び越え石」 落合川



いで我が駒早く行きこそ真土山
待つらむ妹を行きてはや見む

卷12-3154



県境 和歌山から奈良へ



野いちご?

橡の
衣解き洗ひ
真土山
本つ人には
なほ如かずけり

卷12-3009



この先柿畑



麻裳よし紀へ行く君が真土山
越ゆらむ今日そ雨な降りそね



白たににほふ真土の山川に
我が馬なづむ家恋ふらしも



県境 奈良から和歌山へ

従是東 奈良縣管轄の碑



真土山
夕越え行きて
廬前の
隅田河原に
独りかも寝む
弁基
卷3-298

JR隅田駅



麻裳よし
紀へ行く君が
真土山
越ゆらむ今日そ
雨な降りそね
卷9-1680

あさもよし
紀人ともしも
真土山
行き来と見らむ
紀人ともしも
調首淡海
卷1-55



笠田駅 万葉電車入る
藤原鎌足さん、柿本人麻呂さん、額田王さん



我妹子に
我が恋ひ行けば
ともしくも
並び居るかも
妹と背の山
卷7-1210



笠田万葉サークル
木村様

現在の紀の川から離れた所に舟つなぎ松



宝来山神社 和気清麻呂が八幡宮を勧請したと伝わる

無量寺方面 南海道と推定



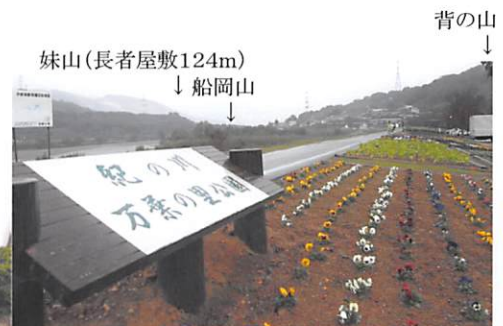
老人憩いの家より

笠田万葉サークルでは
紀の川で相対している従来の妹背山
ではなく当時の地形的な理由などから
背の山の二峰(鉢伏山163m城山168m)
を妹山と背山に推定されています。
船岡山には犬養先生の碑。



背の山に
黄葉常敷く
神岡の
山の黄葉は
今日か散らむ
卷9-1676

妹に恋ひ
我が越え行けば
背の山の
妹に恋ひず
あるが羨しさ
卷7-1208



道の駅 紀の川万葉の里公園